

1 社会・治安情勢

- (1) 6月に北ワジリスタンにおける軍事作戦が開催されて以降、カラチ市内では警察などの治安機関がTTP等武装集団に対する集中的な取締り活動を行い、武装集団の検挙及び銃器や爆発物を発見押収してテロの発生の抑止を図っているが、未だに爆弾テロは散発しており、9月にはパ海軍造船所を武装集団が襲撃する事件や外国公館などが立ち並ぶ地区でテロ捜査官を狙った爆弾テロなどが発生した。TTPは軍事作戦に対して軍施設や治安機関、政府組織を標的にした報復テロを敢行しているが、その標的をソフトターゲット（ホテルやショッピングセンターなどの商業施設、刑務所や学校など公共施設、外国公館や外国権益施設など）に移行する可能性が懸念される。
- (2) バロチスタン州では7～9月中も引き続き、宗教過激派組織や民族主義武装集団による爆弾テロや標的殺人が頻発した。特に武装集団と治安機関との攻防が激化しており、治安部隊が掃討作戦を連日実施しているのも関わらず、武装集団の反撃も収まる様子が見られない。現在、バロチスタン州は治安機関と武装集団が臨戦状態になっており、治安情勢は極めて悪い。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) シンド州警察が発表した本年7月～9月の犯罪統計によれば、カラチ市における犯罪件数は9,869件発生し、前年同期の12,225件と比べて約19パーセント減少した。犯罪種別は以下のとおり。（カッコ内は前年同期）

- ・ 殺人 383件（578件）
- ・ 身代金目的誘拐 21件（38件）
- ・ 暴動 198件（215件）
- ・ 屋内強盗 94件（144件）
- ・ 自動車目的強盗 81件（124件）
- ・ 武器不法所持 1,899件（2,146件）
- ・ 交通死亡事故 99件（134件）

治安機関によるテロリストや殺人犯等の集中取り締まり（掃討作戦）の効果で、殺人や他の犯罪件数は前年に比べると減少しているものの、宗派間抗争に起因する殺人事件や爆弾テロ事件はあいかわらず発生しており、シーア派関係者はこの一年間で150人以上が殺害されている。事態はスンニ派とシーア派過激派の報復合戦の様相を呈して收拾することなく、居合わせた邦人が巻き込まれる恐れがある。

- (2) 邦人被害事案

なし

3 主なテロ・爆弾事件発生状況

(1) カラチ市・シンド州

ア 7月27日、カラチ市ランディ地区において、武装集団がレンジャー隊員2名を銃撃して殺害した。

イ 8月7日、カラチ市カイダバード地区において、ケーブルテレビ会社の社屋の外で、低威力の爆弾が爆発したが、死傷者は無かった。

ウ 9月3日、カラチ市シャラエ・ファイサル通りにおいて、警察官詰所に手りゅう弾が投げ込まれ、爆発により警察官3名が負傷した。

エ 9月6日、カラチ市にあるパ海軍造船所に武装集団が襲撃し、海兵らと銃撃戦となり、武装集団のうち2名が射殺され、4名が逮捕された。また海軍将校1名が死亡、海兵ら8名が負傷した。本件につき、TTP及びアル・カーイダが犯行声明を出した。

オ 9月25日、カラチ市DHA地区において、警察のテロ捜査官を狙った爆弾テロが発生し、通行人2名が死亡、同捜査官を含む7名以上が負傷した。

(2) バロチスタン州

ア 7月18日、バロチスタン州クエッタ市中心街において、治安部隊を狙った路肩爆弾が爆発し1名が負傷した。

イ 7月19日、バロチスタン州クズダールにおいて、辺境警備隊の車両を狙って1時間の間隔をおいて2回の爆発が起こり、一般人3名以上が死亡、辺境警備隊員5名を含む30名以上が負傷した。

ウ 7月28日、バロチスタン州クズダールにおいて、旅客バスを狙った遠隔操作式の路肩爆弾が爆発し、少なくとも乗客7名以上が負傷した。

エ 7月31日、バロチスタン州クエッタ市郊外において、正体不明の武装集団がシーア派のハザラ人2名を襲撃して射殺した。

オ 8月7日、バロチスタン州チャマンにおいて、駐車中のオートバイに仕掛けられた爆弾が爆発し、警察官2名を含む少なくとも12名が負傷した。

カ 8月11日、バロチスタン州チャマンにおいて、市場付近で爆発が起こり一般人4名が負傷した。

キ 8月13日、バロチスタン州クエッタ市中心街において、露店のそばに仕掛けられた爆弾が爆発し、買い物客ら20名以上が負傷した。

ク 8月14日、バロチスタン州クエッタ市において、辺境警備隊を狙った遠隔操作式の爆弾が爆発し、パトロール中の隊員1名が死亡、1名が負傷した。

ケ 8月14日、バロチスタン州クエッタ市のパ軍施設2箇所に対して、TTP戦闘員10名が攻撃を仕掛け、爆弾テロを敢行するなどして10名とも死亡した。また、治安部隊の兵士13名が負傷した。

コ 8月25日、バロチスタン州シビにおいて、急行列車の車内で爆発が起き、乗客3名が負傷した。

- サ 8月25日、バロチスタン州クエッタ市において、正体不明の武装集団がホテル（飲食店）に手りゅう弾が投げ込み、男性1名が死亡、16名以上が負傷した。
- シ 8月26日、バロチスタン州マストゥングにおいて、スーフィー派聖廟に仕掛けられた爆弾が爆発し、女性1名が負傷した。
- ス 8月28日、バロチスタン州クエッタ市において、通信社の事務所が武装集団の襲撃を受け、記者2名を含む3名が死亡した。
- セ 8月30日、バロチスタン州デラ・ムラド・ジャマリの国道において、北大西洋条約機構（NATO）のコンテナを載せたトラックが武装集団に襲撃され、運転手1名が死亡、もう1名が負傷した。
- ソ 9月1日、バロチスタン州トゥルバットにおいて、治安部隊が過激派組織のアジトを急襲し、数時間の攻勢により過激派戦闘員12名以上を殺害した。
- タ 9月8日、バロチスタン州デラ・ブグティにおいて、武装勢力が天然ガスのパイプラインを爆破し火災が発生するとともにガスの供給が遮断された。
- チ 9月13日バロチスタン州クエッタ市において、辺境警備隊を狙った遠隔操作式の爆弾が爆発し、隊員1名を含む3名が死亡、24名以上が負傷した。
- ツ 9月20日、バロチスタン州トゥルバットにおいて、辺境開発機構の車両を狙った遠隔操作式の路肩爆弾が爆発し、関係者1名が死亡、2名が負傷した。
- テ 9月20日、バロチスタン州クエッタ市中心街において、自転車に仕掛けられた爆弾が爆発し、一般人11名以上が負傷した。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

シンド州警察が発表した7月～9月の犯罪統計によれば、カラチ市内における身代金目的誘拐は21件、身代金目的以外誘拐・略取は365件（前年同期430件）、児童誘拐は13件（前年同期25件）発生している。邦人が被害者となる誘拐事件は発生していないものの、過激派組織が資金稼ぎのために犯行に及ぶケースや一般犯罪組織等が誘拐した被害者を金銭目的で過激派組織に売り渡すケースもある。在留邦人を含む外国人が誘拐された場合には事件が長期化する傾向が強いので、当地で生活するうえで誘拐犯などの犯罪者に隙を与えない日常行動が重要である。

5 日本企業の安全に関する諸問題

当地では現在、治安機関がTTPの報復攻撃に対する警戒を強めている状況にあるので、当地への渡航については報道等の最新の治安情報に留意するとともに外務省ホームページに掲載されている渡航情報等を参考にし、その是非を十分検討していただきたい。なお、当地滞在中の安全対策を考える上で当館ホームページ掲載の「安全の手引き」等を参考にしていきたい。